

令和3年度菊池市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

令和2年度経営所得安定対策における全耕地面積に占める主食用米作付面積の割合は約46.09%であり（田に占める主食用米作付面積割合は47.17%）、本協議会は畜産が盛んであることから、転作作物に占めるWCS用稲、飼料作の割合が高く、担い手への集積が進んでいる。

全国的には主食用米の需要が減少する中で、需要に応じた米作りを行い、菊池米の更なるブランド化、主食用米の主産地としての地位を確保しつつ、高収益作物への転換、団地化や新規需要米の多収品種の取組などによる効率化及びコスト削減を推進し、収益確保を図ってきた。

一方で、農業者の高齢化、後継者不足により農家戸数の減少が進み、不作付地が増加している。特に中山間地域ではその状況が顕著であり、1筆当たりの面積が小さいことに加え、鳥獣害及び湿田であることも不作付地増加の大きな要因となっている。

そのほか、麦、大豆については、排水不良、土壌酸度の低下等により、単収の低下を招いており、是正が必要である。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

【転換作物】

飼料用米、WCS用稲、加工用米、米粉用米、新市場開拓用米、麦、大豆、そば、なたね、飼料作物

【高収益作物】

野菜、果樹、花き・花木

上記の転換作物・高収益作物について、下記項目により推進を行う。

1 適地適作の推進

当地域では、メロン、ごぼう、イチゴ、アスパラガス、宿根カスミソウ、トルコギキョウなど様々な高収益作物が栽培されており、農業者毎に作付体系に適合した品目の導入を図っていく。

2 収益性・付加価値向上への取組

高収益作物への計画的な転換を図るため、地域へ水田農業高収益化推進助成の周知を行い、産地における水田農業の高収益化を推進する。

3 新たな市場・需要の開拓

商談会や現地プロモーション活動を活用しながら、新たな需要の拡大を図る。

4 生産流通コストの低減

生産性向上のために『強い農業・担い手づくり総合支援交付金』や『産地生産基盤パワーアップ事業』等を活用し、施設整備を図る。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

畑地化の取組について、施設園芸が行われているような、今後も水稲作に活用される見込みがない水田について点検を行い、畑地化の取組の重点支援期間であることを周知し、地域の実情に応じて水田の畑地化を推進していく。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

菊池米の更なるブランド化を推進し、売れる米作り、需要に応じた米作りを行い、かつ主産地としての地位を確保する。耕種農家に対し、作付面積の目安等は示さないが、営農計画書等で主食用米の作付動向を把握し、必要に応じて指導を行う。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

菊池地域では、域内流通による飼料用米供給牛のブランド化を目指しており、多収品種作付の推進を図っている。また、主食用米混入防止の観点から、刈取は作付け者本人ではなく刈取組合等へ依頼している。現状として、作付け者及び面積が減少している状況であり、需要に応じるために作付面積増を図る必要がある。

イ 米粉用米

産地交付金を活用しながら、地元実需者との結びつきを強化し、米粉用米多収品種生産の拡大を図る。

ウ WCS用稲

契約畜産農家との結びつきを強化するとともに、産地交付金を活用しWCS用稲生産水田への堆肥散布の取組を支援することで資源循環を促し、適切な生産・管理に取り組む。

(3) 麦、大豆、飼料作物

明渠、暗渠等の排水対策に取り組みながら、団地化を継続し、担い手による作付けを支援することで作付面積の拡大を図る。

(4) そば、なたね

産地交付金を活用し、生産量を安定させるために明渠、暗渠等の排水対策に取り組みながら、取り組み地域と実需者との契約に基づき、現行の栽培面積を維持する。

(5) 高収益作物

野菜、花き類の生産拡大を図ることにより、農業経営の安定化や収益の向上につなげる。特に、メロン、ごぼう、イチゴ、アスパラガス、宿根カスミソウ、トルコギキョウを地域重点作物とし、作付面積の拡大を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

作物	前年度作付面積 (ha)	当年度の作付予定面 積 (ha)	令和4年度の作付目 標面積 (ha)	令和5年度の作付目 標面積 (ha)
主食用米	1,635ha 7,864t	1,665ha 8,691t	1,665ha 8,691t	1,665ha 8,691t
備蓄米	0.0	0.0	0.0	0.0
飼料用米	72.2	73.0	79.5	86.0
米粉用米	1.5	1.5	1.75	2.0
新市場開拓用米	0.0	0.0	0.0	0.0
WCS用稲	610.4	611.0	615.5	620.0
加工用米	0.0	0.0	0.0	0.0
麦	585.3	590.0	595.0	600.0
大豆	56.2	57.0	58.5	60.0
飼料作物	1,330.4	1,340.0	1345.0	1,350.0
・子実用とうもろ こし	0.0	0.0	0.0	0.0
そば	17.5	19.0	19.5	20.0
なたね	0.0	0.0	0.0	0.0
高収益作物	340.0	344.0	357.0	370.0
・野菜	196.0	200.0	210.0	220.0
・花き・花木	45.2	46.0	48.0	50.0
・果樹	97.8	98.0	99.0	100.0
畑地化		1.0	1.0	1.0

※主食用米の当年度、令和4年度、令和5年度の目標値において使用した単収は 522kg/10a

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度 (R2 年度実績)	目標値 (R5 年度)
1	メロン、イチゴ、ア スパラガス、ゴボウ カスミソウ、トルコ ギキョウ	地域重点作物助成 (基幹)	作付面積拡大	115ha	120ha
2	野菜、花き、 花木、果樹	地域振興作物助成 (基幹)	作付面積拡大	162ha	175ha
3	飼料用米、 米粉用米	飼料用・米粉用米 多収品種加算	作付面積拡大	74ha	89ha
			単収増（飼料用 米）	539kg/10a	565kg/10a
			単収増（米粉用 米）	338kg/10a	575kg/10a
4	麦、大豆	麦・大豆担い手加算 (基幹)	作付面積拡大	21.9ha	35.0ha
			単収増（小麦）	157kg/10a	340kg/10a
			単収増（大麦）	330kg/10a	330kg/10a
			単収増（大豆）	146kg/10a	170kg/10a
5	大豆	団地化加算(基幹)	作付面積拡大	13.5ha	14.0ha
			団地化率増	16.7%	17.0%
			単収増	146kg/10a	160kg/10a
6	麦、大豆、 飼料作物	二毛作助成(二毛作)	二毛作の作付面積拡 大	1,559ha	1,560ha
			水田利用率増	145.2%	150%
7	飼料用米、 米粉用米	わら利用の取組(耕 畜連携)(基幹)	作付面積拡大	51.5ha	59.5ha
			わら利用率増	71.5%	73.0%
8	WCS 用稲	資源循環の取組(耕 畜連携)(基幹)	取組面積拡大	452.1ha	455.0ha
			取組率増	74.1%	80.0%